

皆様こんにちは。日頃より大変お世話になり、誠にありがとうございます。猛暑の7月に会うたびに、私は初当選をさせていただいた2年前の2005年7月の戦いを鮮烈に思い起こします。そして、一人でも多くの友に私を会わせようと懸命に祈り、走って下さる多くの皆様に、心の底から手を合わせたい思いで一杯になります。2年前の戦いの最中のことです。ある会場に全く目の見えないご婦人が来られました。この方は私の声だけでも聞きたいとおっしゃって、来て下さいました。それだけでも嬉しかったのですが、「皆さんが友人を誘っているのですから、

ご挨拶

私も友人の連れ出しをしたい」と言われ、全盲の方ですので、その日一日分の料金を支払って、新宿在住のヘルパーさんと一緒に来ていただいたというのです。私は、何も知らずにお二人と握手をしました。あとでその話を聞いて、何度も何度も熱いものがこみ上げてきました。私は、このご婦人をはじめ、私を応援して下さいました。お一人お一人の誠意と真心に、全魂を込めて誠心誠意お応えしていこうと誓いました。これからも、すべてに全力で取り組んでまいります。皆様の一層のご支援、ご指導を心よりお願い申し上げます。



都議会議員 吉倉 正美

地下鉄の安全強化を 都営三田線春日駅 ホームゲートの効果確認

5月8日、私は都議会公明党の野上純子議員とともに、都営地下鉄三田線の春日駅（東京都文京区）のホームを視察し、都交通局の職員と地下鉄の安全対策について意見を交わしました。

同線では、ホームからの転落防止対策として、線路とホームを隔てる「ホームゲート」（可動式の柵）が2000年8月までに同局が管理する24駅（三田—西高島平間の全駅）に設置されています。同局によると、それ以降、転落事故はないというが、都営地下鉄の他の線では、01年から06年までの間に、ホームからの転落事故が合計357件発生しています。都議会公明党はこれまで、私が今年2月の都議会公営企業委員会で「ホームからの転落防止対策について計画的に取り組んでほしい」と要望するなど、地下鉄の安全対策の拡充に取り組んでいます。



人命にかかわるホームからの転落防止対策について、計画的に取り組んでほしい

障害者雇用の実情探る 特例子会社視察し、意見交換



私は、今年2月、都議会公明党の野上純子、上野和彦、伊藤興一の各議員らとともに、障害者雇用の実情を探るため、東京都新宿区にある株式会社伊勢丹ソレイユの事業所「伊勢丹落合センター」を訪れ、障害者の就労現場を視察し、関係者と意見交換を行いました。同社は、障害者雇用促進法に基づき2005年3月、株式会社伊勢丹の特例子会社に認定されました。1月30日現在で、障害者を20人（このうち重度障害者15人）雇用しています。

業務内容は、伝票仕分けや製造年月日シールへの日付押印など、親会社の販売業務のサポートが中心。私たちは、ギフト用リボンの作成や包装紙折りなど幅広い業務を手際よくこなす障害者の作業現場を見て回りました。

いじめ防止へ 対策強化



都教育相談センター
「ホットライン」視察

私は、都議会公明党の野上純子、小磯善彦、谷村孝彦の各副政調会長と上野和彦、伊藤興一、松葉多美子の各議員らと共に、6月15日、都教育相談センター（東京・文京区関口栄一所長）を訪れ、相談現場を視察。いじめ問題など、喫緊の課題解決に向け、関係者と意見を交わしました。同センターは、幼児から高校生相当の年齢までの教育相談をはじめ、進級・進路相談などに幅広く応じています。電話のほか、メール、来所による相談にも対応しています。なかでも24時間対応の「いじめ相談ホットライン」は今年2月に開設され、臨床心理士や教育経験者などが相談に乗ります。2月以来、いじめを主な悩みとする相談の件数は、月平均で約250件に及んでいます。

現場で。
調査なくして発言なし

地球温暖化対策の推進へ

クリーンエネルギー先進地(岩手県葛巻町)の状況視察



動く。
行動なくして発言なし

地球温暖化対策の推進を目指す都議会公明党は、6月13日、早くからクリーンエネルギーに着目し成果を挙げている岩手県葛巻町を訪れ、その先駆的な取り組みを視察しました。

これには、私のほか、友利春久、小磯善彦、長橋桂一、松葉多美子の各議員が参加しました。同町は県庁所在地の盛岡市から車で北へ約1時間半。町の86%が森林で、酪農と林業を基幹産業とする人口約8000人の町。私たちは初めに「くずまき交流館プラトール」で、中村哲雄町長から「日本一」といわれる同町の木質系バイオマス発電などのクリーンエネルギー施設について説明を受けました。

この中で同町長は、町内の公共牧場では、関東方面など県内外から3300頭の牛を預かっていると紹介。その畜産団地がすべてクリーンエネルギーの基地になっていると指摘し、2900世帯の同町内で、一般家庭1万7200世帯分の電力を起こしていると説明しました。

下水処理の課題探る

～水再生センターを視察～



都議会公明党の野上純子議員と新宿区議会公明党の有馬としろう議員とともに、2月22日、私は、新宿区上落合の「落合水再生センター」(栗田初男センター長)を地元住民らとともに視察しました。

同センターは1987年、砂ろ過法による下水の高度処理システムを導入し、水質指標の一つである生物化学的酸素要求量(BOD)が、都の基準の1リットル中25ミリグラムに対し、1ミリグラム以下にまで減少。処理水を流している神田川の水質が大きく改善し、現在、一日約45万立方メートルの下水を処理しています。

また、93年には、さらに精度の高い膜ろ過法を導入。一日の処理量は50立方メートルと限られているが、膜ろ過処理された再生水は、同センターの上部施設「せせらぎの里公苑」の人工池などで活用されています。

離島の振興をさらに ～東京・八丈島～

新産業、漁業支援や直行便増便など 現場視察し要望聞く



私は、5月1日、東京・八丈島(八丈町)で、漁業や活性炭製造工場、老人ホームを視察しました。これには、山口なつお参議院議員、藤井一都議会議員、伊勢崎和鶴衛右、山下松邦両八丈町議会議員が同行しました。私たちはまず、同町の漁場を視察。この中で、漁業関係者は、原油価格高騰の影響に言及し「離島からの輸送は大きなハンデになる」と訴え、輸送費用への支援を要請しました。その後、浅沼道徳町長と意見交換し、町長は、羽田空港への直行便増便の必要性を主張しました。

引き続き私たちは、シンノウヤシから活性炭を製造している工場を訪問。活性炭製造は、新産業創出による地域経済再生を図る、経済産業省の「地域新生コンソーシアム研究開発事業」(2カ年)に2004年度に採択されました。関係者からは事業化への課題として、価格競争力の向上などが訴えられました。老人ホームの視察では、建て替えに関する要望を受けました。

「福祉予算」過去最高に

都議会本会議で私が賛成討論

民主は反対 共産は医療費助成でデマ

東京都議会は3月9日、第1回定例会の最終本会議を開き、2007年度都予算案などを賛成多数で可決。民主等は今回、初めて一般会計予算案に反対しました。採決に先立ち、私は知事提出の全議案に賛成の立場から討論を行いました。

私は、一般会計予算案の目的別内訳で「福祉と保健」が、予算額で7931億円、構成比が18.3%と、いずれも過去最高になっていることなどを高く評価しました。

一方、公明党と自民党の申し入れで07年度予算案に盛り込まれた、子どもの医療費助成の中学3年生までの拡充について、「共産党は、これをあたかも自らの手柄のように宣伝している。許しがたいデマゴーク」と指摘し、「選挙目当ての卑劣なパフォーマンス」と糾弾しました。

また、これまで一貫して一般会計予算案に賛成してきた民主党が今回、態度を180度変えて反対していることについて、「一般会計には公債費や都立病院、下水道、都営地下鉄に関連する予算が含まれている」とした上で、「こうした点を何ら考慮しない民主党は無責任」と断じました。